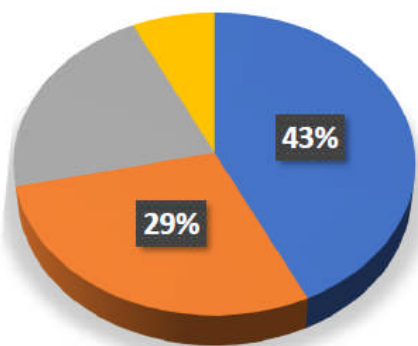


「火災事案」の発生状況

■ 防火に向けた各種活動を継続実施しているものの、現状では**未だ「火災」発生事案あり。**

✓ 工場内での出火要因

- 「溶接・火花」
 - 「漏電・ショート」
- で全体の70%強を占める

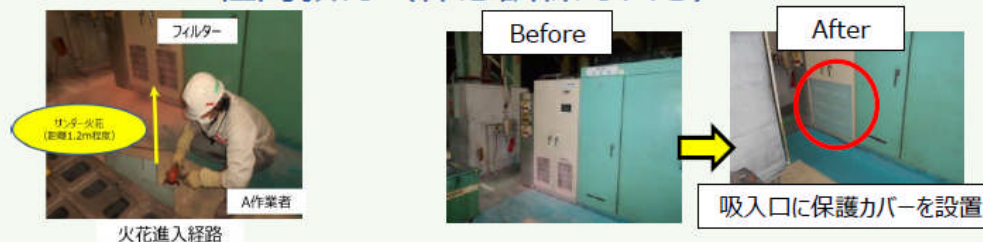


■ 溶接・火花 ■ 漏電・ショート

(2020年度 火災発生要因割合)

✓ 事例 1) 「溶接・火花」 (型製作工場)

- 状況・原因 : サンダー作業時、機盤の吸気口から火花が進入し内部のフィルターに引火
- 対策 : 保護カバー取り付け・類似箇所確認、作業指示変更、社内教育 (体感訓練等含む)



✓ 事例 2) 「漏電・ショート」 (エンジン工場)

- 状況・原因 : 設備稼働時、配線が落下し接触・ショート。周囲の油性クーラントと配線に引火。
- 対策 : 設備稼働時の振動対策、類似箇所確認、標準作業書への落とし込み、社内教育



「火災発生時」の対応プロセス

- 再発防止（類似火災の防止）のため、「**発生事案の概要・実施した対策**」を全社展開、**対策実施状況をモニター**する。



：展開プロセス



：モニタープロセス

事故発生部署：

✓ 「**出火報告書**」と「**類似出火防止要請書**」（定型）を作成し、社内主管部署へ報告



社内主管部署：

✓ 同書類に類似出火防止要請事項を記入し、各拠点の主管課に展開



各拠点の主管課：

✓ 同書類 内容確認後 拠点内展開



拠点各部門（全製造工場）：

✓ 類似出火防止要請事項の実施

社内主管部署：

✓ 実施状況の確認、内容へのフィードバック



各拠点の主管課：

✓ 類似出火防止要請事項の実施状況を確認



拠点各部門（全製造工場）：

✓ 実施確認、及び 実施報告

「火災発生」予防の活動

■ 工場内での「火災発生」を予防するために、主管部署／現場 が連携し、以下の活動を実施

✓ 「ジェネラル視点」での防火活動

活動内容	目的	タイミング
防火管理監査 (現場の日常管理レベル評価)	全社を統一基準で定量的に評価して、事業所・工場間の管理レベル差を把握	1回/年

✓ 「技術視点」での防火活動

活動内容	目的	タイミング
設備の防火安全検収	出火事故に繋がる要因を顕在化 技術的観点から出火防止	設備導入時
先取防火対策 (設備・装置等の出火リスク評価)	出火や延焼拡大のリスクを定量的に評価、先取りの防火活動	工程・設計変更時
防火リスク 技術監査	高出火リスク工程について、設備仕様や管理状態に対して技術的な観点から出火防止	1回/年